

第 18 回肝炎医療コーディネーター研修会

日時：平成 30 年 7 月 5 日（木） 15:30～17:00

場所：ホルトホール大分 3F 大会議室

テーマ：「肝炎医療コーディネーターの役割と肝炎患者の掘り起しのための工夫」

総合司会：大分大学医学部附属病院 消化器内科 遠藤美月 先生

（オープニング：清家先生）

- ・ C 型肝炎は順調に撲滅に向かっているが、まだまだ患者掘り起し等の問題が残っている。
- ・ 「世界肝炎デー」に向けての取り組みとして、目の前の患者さんに何ができるか、みなさんと考えていきたい

【話題提供】 15:30～15:50

座長 大分大学医学部附属病院 肝疾患相談センター 清家正隆 先生

「当センターにおける世界肝炎デーの取り組み」

演者 大分大学地域成人病検診センター 保健師（医療コーディネーター） 安部祐子 先生

- ・ 肝臓病予防キャンペーンを実施、主な内容は肝炎ウイルス検査の受診勧奨、肝臓に関する検査の受診勧奨、肝臓病に関する情報提供、アルコールと肝臓について、アンケート調査、など。
- ・ キャンペーンの目的は、検診受診者が肝臓病に関する情報を知り、肝臓病予防に取り組むきっかけを作ること。
- ・ パネル掲示→ディスプレイにてわかり易く解説
- ・ 館内放送にてキャンペーンのアナウンス、またホームページでキャンペーンの案内
- ・ 内容② 肝炎ウイルス検査の受診勧奨→ 問診にてウイルス検査の受診勧奨、ポケットティッシュ・肝炎シールの配布
- ・ アンケート調査→世界肝炎デーの認知度は低い。また肝炎ウイルス検査を受けない理由は必要性を感じないという答えが一番多かった。またお金がかかるからという答えも 6.7%あった。
- ・ 内容③肝臓に優しい食事の提供：喫食数 128 食 レシピ付チラシの配布数：59 枚
- ・ 考察と今後の課題
内容①肝臓病に関する知識の普及・啓発：周知方法として視覚に訴えるものが多かったが、今後は動画も用いて周知していきたい。

内容②肝炎ウイルス検査の受診勧奨：

- ・ポケットティッシュや肝炎シールの配布により肝炎ウイルス検査の受診勧奨ができた
- ・肝炎ウイルス検査の追加件数は、ほとんどの日で前年と比べて増加していた
- ・肝炎ウイルス検査の費用が、検査の実施に影響すると思われる

内容③肝臓にやさしい食事の提供

- ・アンケート結果から、肉料理の要望もあったため今後は選択式の食事も検討していきたい

〈講演後のディスカッション〉

ウイルス検査の受診促進について→無料化にはできないか？受診促進の取り組みについては色々と今後も県を巻き込んで検討していきたい。

肝炎シール・肝炎手帳について→配布することにより確実に患者さんの意識は向上するので今後もやり続けるべき。

アンケート結果にあった、受診しない理由・必要性を感じない・知らなかったという部分を今後どうにかしていかなければいけない。

厚生連健康管理センター曾我さんより、市町村のよっては、高齢者が多く、9割型の人が検査を終了していると思う。一度、大分県から調査をしてもらいたい。

【総合討論】 15:50～17:00

「世界肝炎デーに向けての取り組み」

コメンテーター：大河原均 成田竜一 香川浩一 遠藤美月 各先生

各グループより発表

協力病院型①：肝炎コーディネーターが何をしたいのかわからないというのが状況

検査勧奨については有料か無料かは大事。健康診断関連で検査をするのが今後重要になってくるのでは。

世界肝炎デーを知らない患者が多いので、もっともっとメディア・広告で周知していくのが必要だと思う。

協力病院型②：各病院の肝炎の取り組みに関してディスカッションを展開した。

透析・一般病院型：検査を受ける側の肝臓病に対する知識・意識が少ない。メディアでの啓蒙・ポスターなどで周知を進めていけないか？

高齢者に対する検診について、どのくらいまでの高齢者に勧めてよいのかわからない。

一般病院：二次検診に来る 40～50 代の方への肝炎検査の受診促進。

大分市に比べて臼杵市では検査をしていない人が多く、検査をしてもスルーされているケースが多い。肝臓の専門医がいないというところも問題。なんとかしたい。

一般病院（病院・クリニック）：介護保険等の動けない高齢者の受診、検診のできない方へ、受診検診を今後どうやっていくか。訪問看護の患者へのウイルス検査は今後の課題。

一般病院：循環器病院なので、消化器は肩身がせまい。市民公開講座の誘致は効果的だと思う。

拠点病院：企業→認知度を上げるためにポスターを作りたい。

役場→周知の為には行政の協力が必要

健保→市民公開講座のチラシを配布、肝炎シールにて意識向上。

拠点病院→治療を受けた患者のフォローアップ。偏見で悩んでいる患者への相談窓口の設置。

大分県：街頭活動の実施。無料検査のチラシを配布。偏見をなくすためのチラシも配布。

（清家先生）県の広報に関しても県主導でどんどん動くよう検討していただきたい。

・各コメンテーターより

成田先生：肝炎デーも糖尿病デーみたいにカラーがあればいいと思う

香川先生：肝炎に関しては市民公開講座しか活動できていない。毎年でなくてよいので行政主導で、大々的に市民公開講座にやると認知度があがるのでは

大河原先生：病院のシステムを構築し、掘り起しを重点的に実施、効果がでてきているので引き続き実施していきたい

遠藤先生：市民公開講座などに出席してみて、患者は食事に関心が高いことがわかった。病院の食堂などに世界肝炎デーのポスターなどの告知ができればよいのでは。

佐賀県：佐賀県の取り組みの紹介→世界肝炎デーに合わせてイベントを実施。子供連れの働き盛りの方をターゲットに、無料のウイルス検査を実施。また CM 等を流して佐賀県民に訴えている。患者様に周知するためには、施設の方々にも世界肝炎デーを周知するのも重要。

【今後の課題】

・市町村で定期検査がおおむね終わっている地域の患者の確認、掘り起し。行政がどう絡んでいくか。

・訪問看護先での検診・検査を今後どうするか